

新著紹介

○十六世紀日歐交通史の研究

岡本良知著 弘文社
發行 定價十圓

生産者及びアルミニウム製品の工場主は國產工業に地方的市場を保留する關稅の撤廢に對して活躍してゐる。獨逸は極めて難局な立場にあり、其の必須な鑛産地は大戦後の處決に依り剝奪され、また或る方面からの資源を中心とする鑛物の流入は戦後の商業上の新協定の結果、甚大な損害を蒙り、且つ殖民地に於ける鑛産資源の開發も殖民地を失ふと同時に絶望となつた。獨逸が佛蘭西とポーランドに對して政治的に商業的に親善政策を進めつゝあるのは獨逸の鑛業能率を恢復せんとする最初の一步を踏み出したと見るべきであらう。

獨逸政府は此の問題に異常な精力と徹底主義を以つて當つて居る故その結果は括目して見るべきものがあらう。

従つて斯かる事情の下では、獨逸が外國の商業的並びに政治的支配下ある資源から需要鑛物の供給を保證する手段として天然資源の國際的管理案を好意的に受諾してゐることは敢えて怪しむに足らない。(未完)

さきに「長崎開港以前歐舶來往考」を著した篤學の著者は葡萄牙側の多くの古文書史料を蒐集研究されたので、主としてポルトガル人が獨占通商をなした一五九〇年以前の歴史をのべられていかにも詳密である。岡本氏はゴール人及びレキオ人に就て最近の秋山謙造氏の歴代寶案による解釋からゴール人を琉球人とみることには賛意を表しながら、それでもそのゴール人の中に日本人がゐると思ふ、即ちゴール人を琉球人であり兼ねて日本人をも含むといふ見解に立つてゐられる點は、筆者のゴール人は日本人であるとする意見から見ても餘程尙がゆい點であるが、それはいづれ他日詳しく卑見を開陳するリヤンポーと寧波とは發音の差で同一の地名であるが、著者はバードレガスバール・ダ・クルスの傳へるリヤンポーは島であつて寧波ではない、リヤンポー部落は別地であつて双嶼ではないかと疑つてゐられるけれども、双嶼は鎮海縣南百二十里の地で葡人のみではない、日本の倭寇の巢となつた土地であつて、リヤンポーの近傍ではない、倭寇と双嶼とポルトガルの關係は天文年代に餘程密接であつたのであるが、著者には右に關した論説は見ない、不幸にしてさうした二三の點

に關し著者と見解を異にするけれども、邦文でこゝまで詳密な資料を解説された本は今迄の日本になかった。筆者は岡本氏の努力に感謝し、日本と歐洲との交渉や日本と南洋との交通の過去がいよ／＼明になつてくるのを喜ぶものである。妄評多罪。(藤田)

○現勢世界地圖一輯

東京富山房發行
定價二圓 特價一圓五十錢

最新の出版掛圖でメルカトル式世界全圖である。大きは床掛けに適する價格もやすい、一般家庭向きに適する、蓋し現代のめまぐるしい世界事情を理解するために座右に地圖は殊に必要である。本圖幅は日本人及び日本商品の海外進出と環太平洋地域とを主要の目的とし、フィンランドの帝國公使館ベイルートの領事館等に至るまで最新の在外使臣所在地をしるし、太洋上に於ける日本人の海外發展地圖へばニューギニアのドボ、セレベスのアトトン、アラフラ海などをはじめ、最近盛んに日本商品を輸入するシリアのハイファ、蘭領キュラソー及びアフリカの各海港等を詳記し、我汽船の寄港地ではタワオはぬけてゐるが、最新のニューカレドニア航路まで記してある。シベリアで建設中のバム鐵道、さてはロシヤの軍需工業地たるコムソモリスタ、ブレヤ、スタリンスタ等をも洩さず、殊に極東に於ける航空路に意を用ひ、滿露國境方面の如き注意は十分に行き届いてゐる。加ふるに印刷も鮮明であり表装も悪くはない。簡明な世界交通經濟地圖として推奨

するに資でない。(藤田)内地送料三十錢外地六十錢。

○伊東忠太見學紀行

東京龍吟社發行 賣價六圓二十錢

本書は伊東忠太建築文獻全六卷のうち第二回配本の第五卷である、分冊して賣るかどうかは知らないけれども、建築學者の旅行記として、地理學上の文獻としても稀觀の好著である。本書收むる處第一琉球紀行、第二支那旅行五篇、第三山東見學、第四五山巡禮、第六南洋地方探檢、第七緬甸旅行、第八印度旅行、第九カシニミール、第十シリア沙漠、第十一小亞細亞橫斷、第十二トルコ、埃及、第十三歐亞の咽喉、第十四希臘旅行これ丈けで博士の足跡は實にアジア、アフリカ及び歐洲に跨がり、古代文化の發祥地のすべてを巡視されたことになり、古建築物を見學する殆どの目的を充足されたことがわかる。

獨り建築物のみの記事ではない、先生獨得の美文輕妙な筆彩で土地人情風俗まで手にとるが如く明かになるのは何としても他に及びがたいものがある。支那の旅行は主として建築談であるが、ビルマ、印度等に至つては土人の風俗など興味津々たるものが多い。いづれにしても博聞強記の伊東博士の著であるだけに、それがかやうに一まとめになつて出たことは近來の快事である。分冊にし得たならば本書は多數の地學の徒に歡迎されるであらう。(藤田)

○昭和九年颱風被害調査書

大阪營林局非賣品

雜報

大阪營林局長三宅發士郎氏の監督の下に出來たこの調査書は近畿、飛騨、北陸、山陽、山陰各方面の被害と颱風の進行とを概論し、各府縣下の森林被害を更らに局部的に詳述したものである。地況及林況と風水害、最後に颱風と森林の施業とのべ寫眞や圖解ことに鮮明を極めてゐて一讀當時を回想し再讀風水害の對策に所せしむるものであり附録に昭和九年風水害關係文書がのせてある、我等は本書によつて教へられる所が多いと共に營林局執筆の各位に深甚なる感謝をさしける。

(藤田)

○京都市都市計劃基本圖

三千分一 京都市役所藏版
寫入 二十八回

三千萬分一京都市實測圖がさきに京都市で出來たのを今度小野三正氏の手で増補改版した、それが一部日本地圖協會の手で發賣されてゐる。今日までに出來た京都の地圖でこれ程詳密正確なものはない、従つて京都市の過去の歴史と將來の發展とをこの一枚に網羅し得たといつて過言ではない。六大都市の何所にもまだかやうな基本圖がかゝる安價で發賣される迄には事業が進捗してゐない際に、我京都市が敢然として萬金を投じてこれをやり上げた所に誇があり、さうして又これを安價で一般の人に賣り出すことをゆるした點に於ても文化事業の一として敬服に堪えないと思ふ。丸善か、小林川流堂などへ申こめば手に入るであらう。(藤田)

○赤峰の甘草

甘草は阿片及毛皮類と共に東部内蒙古の特産物として有名である、赤峰縣や建平縣がその中心で興安西省は土地遠隔で交通不便のため之を放置しておくやうな狀況であつたが、昭和十一年度から興安省各旗と赤峰の滿蒙興業株式會社支店との契約で旗で採取しはじめることになつた。

甘草採取はその地に於ける蒙漢人の唯一の生業であるが、栽培植物ではない、野生のものをとる年額凡そ四百萬斤すべて赤峰に集まる、三月から六月までの農閑期に採取し、砂地産は黄色にして甘味多く粗大で藥用に供し、壤土地のもの、はやゝ黒く苦味があるがエキス分が多いので之をエキスにつくる、シラムリン河一帯の産が良い。

現在ではたい無茶に引きぬき細根を残さないからいかに無盡藏といつても追々と産出が減する傾向である、今日に於て之を栽培するとか輪堀する方法を講じなくてはならぬ。

○メキシコ事情

メキシコは世界で最も鑛産にとむ國の一である、銀は第一、全世界産額の約半分、鉛は第二位、金は第五位、銅は第六位、亜鉛は第九位、石油以外で鑛物産出一億六千萬ペソ、石油は世界第七位であるが其油田六萬ヘクタール、一九三三年には五百四十萬立方メートル九千六十万ペソにすぎなかつたけれども、一九二一年には三千萬立方メ